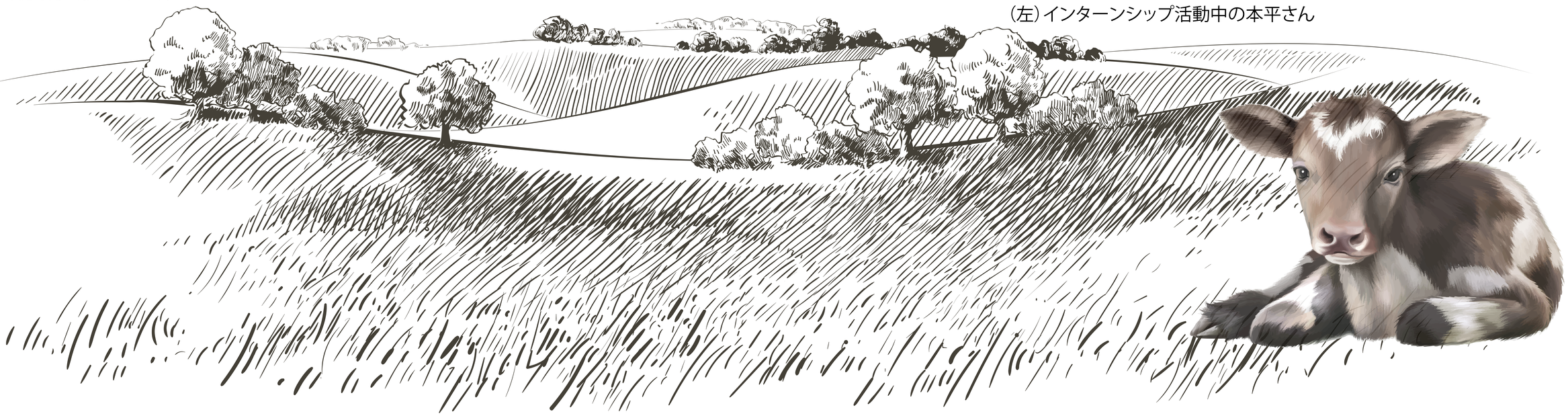
卓越生の活躍の紹介
本平　航大　さん

本平さんは、獣医学院毒性学教室において「化学物質が人体に与える影響」を専門に研究しており、これまでに国内外で多義に亘る活動に参加してきました。様々な分野の人々を繋ぐことの出来るコミュニケーターとして秀でた存在です。

モンゴルでは、現地の研究者たちに畜産物中の残留抗生物質の定量メソッドに関する技術移転を行い、モンゴル人が毎日食する羊肉や牛乳からテトラサイクリンなどの抗生物質を抽出し、分析することが出来るようになりました。南アフリカでは、野生ラットを用いて殺虫剤DDT*の健康影響を調査しました。また、日本国内では、小中高生向けに教育ワークショップを運営したり、学部生を指導したりと、学生の教育活動に大変熱心に取り組んでいます。

そんな本平さんが、昨年１０～１１月に、本プログラムのインターンシップ活動として科学技術コミュニケーション教育研究部門（CoSTEP）で、当該分野の指導者としての仕事を体験してきました。インターンシップの様子がCoSTEPのウェブサイトで紹介されていますので、是非ご覧下さい。

本平　航大さんのインターンシップ活動紹介ページ：
https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like_hokudai/article/24597
『いいね！Hokudai』より転載

（左）インターンシップ活動中の本平さん

＊DDTは、有機塩素系の殺虫剤であり、1940年以降、世界各国で幅広く使用されてきました。マラリアを媒介する蚊のコントロールに効果的である一方で、現在では人への安全性や生態系への影響が懸念される化学物質とされており、2001年に採択されたストックホルム条約によりDDTの製造・使用は制限されています。